

『絵本とは何か』研究の集大成

いわさきちひろの息子 松本猛さん 著書出版



集大成の著書を紹介する松本さん

松川村の安曇野ちひろ美術館常任顧問で美術・絵本評論家の松本猛さん(73)が、50年にわたる研究の集大成として、絵本論『絵本とは何か 起源から表現の可能性まで』(岩波書店)を出版した。

松本さんは、絵本画家の母親いわさきちひろの影響で、絵本の研究を始め、美術の側面

から絵本を論じた最初の論文を執筆した。

本作は、絵本の表現から絵本の歴史、絵本の可能性まで、絵本の

哲学を語るこん身作。さまざまな社会的テーマを内在し、21世紀になって多様化した絵本の背景を紐解く。

「絵本は」子どもから大人まで、垣根を越えて伝えられる、世界共通の言語」とい、「子どもに絵本を手に渡す人、絵本や絵、映

像に興味がある人にも読んでもらいたい」と話している。

同館のショップや主要の書店で発売中。松川村図書館でも貸し出している。A5判・240ページ。2500円(税抜き)。問い合わせは同館☎0261-0772まで。